

市民記者が行く!

市民が池田市の魅力をレポートする
“市民記者”として、地元・池田の
情報を発信します。

今月の市民記者
米津 榮次郎さん



広報誌で池田を伝えて今年で15年目。「何か社会に恩返しできたら」と話す、御歳87歳。地球温暖化についての科学的知見を集約し、国際的に広める「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」にも参加。

取材先

五月山早朝登山の会



ヤッホー！夜明けの五月山に登りたい！

本市のシンボル五月山は、北摂の山並みと平野の境目にあって、日の丸展望台付近が標高315mの頂とされています。そこに山があるから登るのかどうかは別にして、今回は朝早くやや暗い内から、何回も楽しく登っている山仲間たちの団体を紹介します。

後藤英雄世話役会長率いる「五月山早朝登山の会」は昭和61年に設立され、会員数は約40人です。活動は

ほぼ毎日と言っても良い。何故なら早朝に登ることと、日の丸展望台下の霊園管理事務所軒にある同会記録表に登頂履歴を残すことだけが会員のくくりだからです。会員それぞれが他会員の動静を気にせず、安穩に自由に気ままに登山ができる環境にあります。もちろん登山の途中でお仲間の会員と出会うことはあり得ますが…。

年に一度のみ、全会員が会う機会「新年の集い」が池田駅前南会館で開催されます。新入会員の自己紹介や先輩会員の薫陶などできげやかに盛り上がるそうです。そこで、後藤世話役会長に意図するところを聞きました。

「五月山登山を通じて各自身安全に配慮し健康寿命を延ばしたい。モチベーションを上げる方法として、そ

の度に更新可能な目標を設定するのが好ましい。その果実として素晴らしい登山(回数)記録が生まれ続けています。これが本会の誇りでありました」とおっしゃっていました。

平成25年1月13日付けの後藤英雄「認定書」によると平成24年12月31日までの累積として、五月山早朝登山記録3285回・平成24年度256回と記載されています。これでも私はすごいと思いましたが現時点では当然これを超えています。最新の累計は約5000回や約8000回のほかに、一日も休まず3年間という猛者もあり、ただただ驚いています。もっとも、五月山の魅力は回数にとどまりません。会員の谷田伊平さんは「落ち葉が散らばる山の道に入ると、太い松の木が行く

手を遮るように立つ。整備されていない自然の山道。それがまた野趣に富んで楽しい」とおっしゃいます。

またご来光を拝すという恵みもあります。同会員の両澤延行さんが創設した本格派「川柳五月山」は、頭の体操も必要と考えた当会のメンバーや活動の一部が母体となり発足した会です。

当会に参加したいと思われる方は、展望台下の霊園管理事務所軒に当会登山者の記録表が設置されていますので、気をつけて日の丸展望台までお越しください。自己責任のもとわずらわしい規則はなく、同記録表(板)付記の説明に従い記名していただきたいと思いますので、会員一同で大歓迎するとのことです。